

< 編集後記 >

今回は金田先生がリーダーをされている21世紀COEプログラム「計算科学フロンティア」や、3月から運用が開始される新システムの紹介など、大規模計算をさらに発展させるためのソフト（人、概念）とハードの紹介がありました。新システム紹介の記事にあったように、情報連携基盤センターが運用するスーパーコンピュータシステムのアーキテクチャは3月から大幅に変更される予定です。この新システムによって、これまで不可能だった規模の計算を実行することが可能になります。しばらくの間は、試行錯誤の運用が続くと思いますが、使いやすい環境をご提供できるように努力していきます。

また、一方で、名古屋大学ポータルシステムを用いた学務システムのサポート体制や全学的な認証基盤であるLDAPサーバの紹介もありました。ご存知のように、2002年4月に大型計算機センターは附属図書館と情報教育メディアセンターの機能の一部を取り込み、情報連携基盤センターが誕生しました。これに伴い、名古屋大学での情報連携基盤センターの役割が、大型計算機とネットワーク（NICE）の運用ばかりでなく、全学的な情報基盤の提案及び運用にも広がりました。約3年間をかけて、情報連携基盤センターが考える次世代の情報基盤を具現化し、実際にユーザの皆さんに使っていただけるようになりました。いろいろとご不便な点もあるかと思いますが、ぜひ、ご意見をお聞かせいただければと思います。

最後になりましたが、共同利用掛の青沼さんには長年センターニュースの編集に携わっていただきましたが、今号が最後となります。お疲れ様でした。

（Y.H.）